

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370300311		
法人名	医療法人 勝久会		
事業所名	グループホーム綾姫		
所在地	岩手県大船渡市三陸町綾里字清水67		
自己評価作成日	平成25年11月5日	評価結果市町村受理日	平成26年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0370300311-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>周りには海、山、田んぼがあり自然豊かな環境に囲まれた地域に事業所が位置しており、ホームを出れば散歩道もあり、天気の良い日には、利用者様が外に出やすい環境にある。同法人が行なっている1階にあるデイサービスとの交流もあり、入浴に関しても大きい入浴場を借りて温泉気分を味わうことができる。ご近所から、畑で採れた野菜を頂いたり交流もある。入居者様のペースに合わせ、生き生きと生活できるよう支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム綾姫」は、以前は建設会社の事務所であった建物を、1階はデイサービス事業所、2階をグループホームとして使用している。改修してはいるが、不便を感じている部分を工夫しながら安全面に注意をして毎日のケアに繋げている。外部の階段、屋内の階段と非常口があるため、ホーム内の掲示板に「避難経路図」が掲示されており、安全面の配慮が感じられた。保育園・小・中学校との交流が深まり、運動会・文化祭の案内を頂き、皆で出かけている。自治会長さんの好意によりホームの行事案内を地域に回覧で広報したことにより、避難訓練、夕涼み会に地域の方が多数参加していただき、盛大に開催でき、地域との交流の幅が広がってきている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を出勤者に聞き口頭で答えてもらい業務に入るようにしている。覚えることで理念を共有するようにしている。	管理者の変更により、職員と共に理念の見直しをしてつくりあげた。暗唱をして意識を持つようになっている。玄関、リビングに掲示して誰の目にも付くようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小、中学校から行事のお誘いがあり参加している。回覧板をまわし、野菜を頂いたり、草刈りにも参加し交流している。ホーム便りの配布によりホームのことを理解していただいている。	学校からの行事案内には参加をし、運動会(当日は混むので、総練習を見る)は特に喜んでいる。文化祭の見学と頻りに交流がされてきている。保育園児との七夕飾りも楽しみになっている。散歩時、地域との交流も日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校から清掃活動にきたり、夕涼み会では地域の小学生を招待し交流の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動状況を毎回報告している。消防署にも参加して頂き、防災、災害について話を聞く機会も増えており、先月は救命講習の研修会を行った。	利用者、家族を含み10名程度で開催し、行政からの参加もある。委員からの発案で地域の避難訓練(ホームの屋上に設置したサイレン、拡声器、回転灯の試運転を兼ねて)を、区長さんの呼び掛けで行った。夜間の避難訓練を19時から体験して状況の把握をした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で行われている月1回の事業所連絡会に参加している。又、運営推進会議にも参加して頂き、状況を話す機会、助言を頂いている。市主催の避難訓練にも参加している。	市主催の連絡会は事例検討会も兼ねている。行政からは、推進会議に参加して頂き、制度面、交流面の助言を頂いている。ホームからも、申請、報告等で担当課に出向いて指導を受け情報の共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが2階部分であり、エレベーター、階段入り口に安全の為、鍵がついているが、施錠せず、出入りが自由にできるようにしている。転倒の危険性がある方でも本人のペースに合わせて、散歩や掃除等、行っていただいている。	昨年度のステップ項目であり、拘束について内部研修を行い、職員は理解の幅を広げて日々のケアに活かせるようになった。建物両側の階段はあくまでも非常用であり、施錠せず見守りを強化することで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や外部研修に参加し、職員全員でスピーチロックを含めた、虐待防止に努めている。また、委員会で作成したマニュアルを活用し、いつでも対応できるようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム綾姫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用されている方がおられる。利用者やご家族の環境やニーズに応じ、関係者と話し合い支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の説明時に十分に時間をかけて、理解して頂けるよう努めている。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応等、詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設置している。運営に関して、職員の対応やハード面について等、アンケート調査を行った。職員全員で要望を共有し、運営に反映させている。利用者からの要望については、ドライブや食事等、希望を聞いて対応している。	ホーム作成のアンケートを実施し、8家族から回答があった。その結果から、外出をする、受診は家族に連絡して了解を得てから行う、等について変更して取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回の会議や「ケア報告連絡相談シート」を活用し、職員からの意見を発信する環境を整えている。また、普段から気付いたことを管理者に提案し、職員とコミュニケーションをとりながら反映するようにしている。	常に職員から意見や要望を聞く体制があり、予防接種後の外出について(変更した)、トイレに温水が欲しい(対応済み)、外のベンチを増やして欲しい(増設済み)と職員も活発な提案をし、法人も理解を示していることを、生き活きた職員の様子からうかがい知ることができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	臨時雇用職員に関しても資格取得に向け支援を行っている。資格取得者には正規雇用採用をする機会がある。代表者は、給与水準に関して、介護職員の待遇改善に向けて積極的に国や県へ働きかけを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人1人に委員会活動等の責任ある仕事を持たせ、スキルの向上を図っている。また、部署内での勉強会を定期的開催したり、外部研修へも出来る限り参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム主催の会議や研修に参加し勉強会や他ホームとの情報交換、交流しながら、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査のマニュアルを基に、2名で訪問し、さまざまな視点からの情報を得るようにしている。本人から、現在困っていることや入居後の不安や要望を伺い、戸惑うことなく入居し、生活できるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査に訪問した際に、家族の悩みや要望を聞き、入居後も気軽に相談できる環境作りに努めている。面会に来られない家族には手紙やパソコンのメールを活用したり、受診先の病院で話を伺ったりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの特徴を説明した上で本人、家族に必要なと思われるサービスについても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らしている意識を持てるよう、買い物掃除、食事の準備を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にホームでの様子を伝えるだけでなく、行事などへ家族を招待し本人、家族、職員が共に過ごす機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係については本人や家族から聞き取ったり、面会に来た方々より聞き取っている。地元のお祭りに行ったり、ドライブしたり、お盆やお正月には帰宅して自宅で過ごせるようにしている。	1階のデイサービスに通う友人と、デイの大きなお風呂に入る利用者もいる。友達や身内の方がホームに遊びに来たり、お盆・正月には自宅に帰る利用者が4名いたり、2泊3日を家族と過ごす方もいる。墓参り、床屋、美容院へ出かける方もあり、支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に掃除、茶碗拭きなどすることにより利用者同士の関わりも見られている。一緒に行っていたくことにより、協力意識が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在もホームに野菜を持ってきて下さったり、職員が施設に面会に行ったり、交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションから希望や意向などを聞き出して把握し、それらをケアプランや申し送り表を活用して、職員間で共有している。聞き取り困難な方に対しては、家族から聞いたり、本人の行動から汲み取るようにしている。	聞き取りが困難な利用者が2名おり、家族や会話で汲み取りをしている。性格の変化についても家族の協力に対応している。行きたい場所、食べたいものを日常的に聞き取りして、本人の希望に沿うように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、居宅ケアマネから情報収集を行っているが、まだ不足している部分が多い。本人との会話から、生活歴や生活環境を探り、今後のケアに活かしたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者1人1人の日々の生活の変化を見逃さないよう、心身状態、能力の低下がないか等、把握し、職員間で情報を共有し記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを充実させ、できること、できないこと今後、必要なこと等を記入するようにしている。それにより、新たなニーズの検討の必要性等に反映させている。カンファレンスでは医療連携の看護師にもできるだけ参加していただき、医療面からの意見も出していただいている。	一部センター方式を取り入れたことにより、利用者の周辺がより深く見え、プランに反映させることが可能になった。担当者を中心にカンファレンスを行い、訪問看護師も参加をして検討をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に基づいたケアを実践し記録に残し、ケア報告連絡相談シートを使い実践に繋げ、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADLの低下や状態変化の際には、家族と相談し、状況に応じた他事業所の説明をしている。必要時には、その事業所に相談し家族に報告している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム綾姫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の移動図書館を利用している。又、3ヶ月に1度発行しているホーム便りを利用者の方と近隣や小、中学校へ配布している。希望に合わせ、近所を散歩し、近隣の方と交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医を受診し、その都度、状態報告等を家族へ行っている。受診連絡表を作成し、主治医からの指示を記入してもらったり、ホームでの様子を分かるように伝えるようにしている。	入居以前のかかりつけ医を継続受診している利用者は2名で、7名は法人のクリニックに変更している。受診連絡表を作成して情報提供をしている。変化があるときには職員も同行してホームでの状況を説明している。	遠方家族の場合はホームで受診支援をしているが、最近では職員同行が大半であり、あまり受診連絡表が活かされていない実情がある。受診時は家族と利用者本人のコミュニケーションの機会と考えることから、家族や、関係者と話し合いを重ね、より良い対応ができることを期待する。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、兼務看護師が訪問し、健康指導を行っている。個人の申し送り用紙を活用し、情報の共有に努めている。状態変化時は、その都度、相談し助言を頂いており、対応は24時間可能となっている。又、合同カンファを行い、1人ひとりの医療面でのケアについて話し合いを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が何度も御見舞いに行き、家族や病院関係者から情報を聞き、状態把握に努め退院後も安心して生活できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態変化を家族に説明している。重度化、終末期にはできるだけ本人や家族の意向を尊重していきたい。しかし、ホームでは対応出来ることも限られることから、チーム内でも話し合った上で本人、家族等が納得できるケアを提供していきたい。	常時医療的な支援が可能な状況ではなく、ホームの状態を家族には理解して貰っている。食べられない、入浴が出来ない等の状況になった時点で、再度、家族と話し合いを持ち、法人の介護老人保健施設「気仙苑」への入居支援を説明して、家族の安心につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護との定期的なミーティングを行い様々な急変に備えてマニュアルを作成している。ホームでも緊急に備えて勉強会を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災後より毎月想定を変えて避難訓練を行なっている。津波注意報が発令された場合、地元職員が駆けつけるモバイル通信にて携帯電話を通じて知らせている。近所の方々にも夜間想定訓練に参加していただき、協力をいただけるような体制作りになってきている。	毎月11日を訓練の日と決めて、地震、警報、停電等の色々な場面を想定して、「階段を下りる」「ヘルメットを装着する」「非常食を食べる」等をしている。3日分の備蓄がある。避難訓練には近所の方8名が参加していただき、現状を見て頂き、理解と協力をお願いした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のお名前呼び方やトイレ誘導、入浴介助の際の声がけに注意しながら取り組んでいる。排泄や入浴時にもさりげない言葉で不快感を与えないように、ケアに当たっている。人生の先輩であることを念頭に自尊心を損ねないケアに努めている。	大半の利用者は日中のほとんどをリビングで生活している。大きなテーブルの席も暗黙の決まりがある。本人にだけわかる声掛けで、トイレ誘導、足浴誘導をして本人の気持ちに沿った支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、本人の希望を伺う為、できるだけ個人の意見を尊重する様心掛け、声掛けも自己決定できるような声掛けを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大事にしている。外出希望のある利用者には散歩、買い物、昼寝したい利用者には居室で休んでいただいたり希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師の方に来ていただき、ホームで散髪をしていただいている。外出、入浴時、等利用者本人の着たい服を選んでいただいている。なかには、毎朝、お化粧をされている方もおられ化粧セットを渡し、行っていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みや状態にあわせたり、旬の食材を使用したりと工夫している。利用者の誕生日には誕生会を行い、ケーキ作りをされたり、毎食の盛り付け、片づけは毎日一緒に行なっている。	献立担当の職員が2名おり法人の栄養士の指導のもと、利用者の希望する献立を提供している。利用者も野菜刻み、盛り付け、茶碗拭きを担当している。介助の必要な利用者が3名おり、職員も介助しながら自分も食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内管理栄養士が2ヶ月に一度、ホームへ訪問し栄養指導して頂き、専門的な観点からアドバイスを頂いている。毎日の食事、水分の摂取量を記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状況に合わせた、口腔ケアを行なって頂いている。利用者の状況変化に合わせて、口腔ケア方法を検討し、実施している。週に一度、義歯の消毒を行なっている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム綾姫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、排泄パターンの把握に努め、声掛けにてトイレへの誘導を行なっている。尿便意、曖昧な方には、トイレで排泄できるよう支援している。	皮膚疾患防止のため、布パンツ利用と、トイレでの排泄を支援している。さりげない声掛けと誘導で対応はスムーズに行われていた。トイレも清潔で手入れが行き届いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェック、低下の防止を行なっている。管理栄養士の指導を受け、便秘に良い食材などを取り入れ工夫したり、運動したりと、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	意志疎通が可能な方には希望を聞き、タイミングを合わせ入浴して頂いている。1階のデイサービスの広々とした入浴場を借りて、温泉気分を味わって頂いている。同性介助を望む方には入浴日をずらして対応している。	拒否が多い利用者でも週1回は入浴をして頂けるように支援している。週2回を目安に日勤職員が対応している。14時～16時の時間帯を目処に入浴し、デイのお風呂には5名の方が出掛けている。夏場はタオル浴も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を観察し、疲れや異変が見られる利用者様には休息してもらうよう促している。夜間、良眠出来よう、日中、活動的に過ごしていただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の準備は職員が行い、服薬の確認チェックを行なっている。職員が薬の内容を把握できるよう努めている。新たに服薬マニュアルを作成し、誤薬や飲み忘れを防止するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い等、たくさんの利用者が参加されている。互いに助け合う姿も見られている。ドライブや買い物に行き、他入居者と楽しみながら、買い物している姿も見られており、ホームから出ることによって気分転換になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方に協力して頂き、外出の機会を設けている。なかには、自宅へ外泊している方もいる。現在は食材を買いにスーパーへ行き、利用者職員で買い物を行なっている。日曜日は利用者の希望に沿ってドライブに出かけている。	ホームの外で外気浴30分程度、散歩30分程度その日の気分で行っている。ドライブは、利用者全員が好んでおり、生き生きした顔を見ることが出来る。夕方から夕食を食べに、週1回帰宅する利用者もいる。食材買いだしに、マイヤまでドライブしたり、個別にドライブをする利用者もいる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム綾姫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ホームで行っている方と自分で所持している方がおられる。買い物に行った際、自分が食べたい物、飲みたい物を購入し、お金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に本人が電話をできるよう支援している。家族から電話があった際にはとりつき、コミュニケーションの場を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	水木団子作り、七夕飾り作り等で、季節行事を通じて、季節感を出す工夫をしている。リビングに、その季節に合った飾りをし、廊下には、行事等の写真を掲示し、行事ごとに写真を替え、利用者の方々に季節感を感じて頂いている。	リビングの大きなテーブルに、体型に合わせて調節された椅子、ゆったりしたソファ、畳スペースと場所を選ぶことができる。立派な神棚に毎日手を合わせる利用者もいる。広い廊下には、掲示板があり、行事の写真が展示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごす利用者の方が多く、テレビの近くに畳とソファを置き、くつろげるスペースを作っている。仲の良い利用者の方同士の席に配置することで、お茶飲みや談笑できる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様のなじみの物を選んで頂けるようその旨をご家族に説明している。その方の習慣を変えることなく安心して過ごせる居室作りに配慮している。居室や廊下には、行事等の写真を貼り、入居者様が楽しめるよう工夫している。	居室はベットが備え付けであるが、習慣で2名の利用者が布団を敷いて休んでいる。位牌、写真、人形衣装ケースを持参して住み易い工夫をしている。利用者と職員が協力して掃除をしており清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が自分の居室がわかるように近所で頂いた木材を利用して表札を掲示したり、混乱時には、その原因に合わせた対応を検討し、環境を整えるようにしている。		